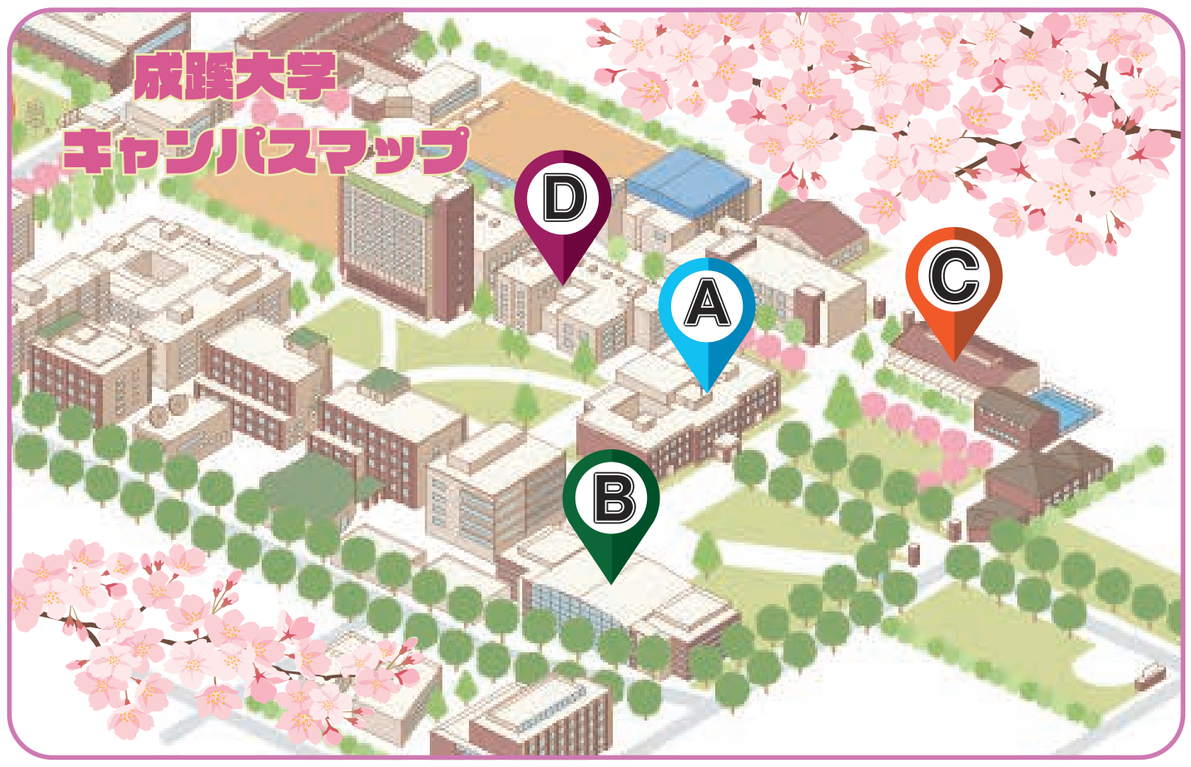
押さえておきたい 施設案内

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！本年度は対面授業も段階的に再開される予定です。本学には、授業以外でも活用できる施設がたくさんあることを知っていますか。この施設紹介が、より有意義な学生生活を送る助けになればうれしいです！



本館

正門からキャンパスに入ると、赤いれんが張りの本館が正面に見える。構内で最も歴史のある建物の一つで、本学園が池袋から吉祥寺に移転した1924年に竣工した。本学の象徴とされており、その美しい外観から映画やテレビドラマの撮影にも使われている。

開学以来授業棟として使用されていたが、現在では本学を支える部署の集まる本部棟としての役割を担っている。1階西側の学生部は、拾得物の管理や部活動・サークル活動のサポート、奨学金に関する手続きなどを行う。北側に位置するボランティア支援センターでは、コーディネーターへの相談や情報収集が可能。その他にも、アドミッションセンターやサステナビリティ教育研究センターなどが設置されている。

広く開放感のある大講堂

本館中央部の２・３階には、吹き抜けでつながった大講堂があり、半円アーチ型の窓をはじめとする洋風の造りが特徴的だ。広く開放感があるため、講演会やミス成蹊コンテストの会場として使用されている。昨年度に行われた新入生歓迎行事でも、應援指導部チアリーダー部や競技ダンス部の発表場所として用いられた。（大濵百花）

情報図書館

情報図書館は約130万点の図書資料を所蔵している。ガラス張りの壁と1階から５階まで続く吹き抜けにより、日差しをたっぷりと取り込めるデザインが目を引く。充実した設備の中でも、冷暖房完備の個室閲覧室「クリスタルキャレル」は、静かな環境で集中できると好評。同じく人気を集めるのが、アトリウムに浮かぶグループ閲覧室「プラネット」だ。こちらは、ゼミや少人数の授業といった複数人での学修を行う際に使用可能だ。

新型コロナウイルスの影響によりキャンパスへの入構が制限された昨年度は、大型本を除く一般図書を自宅へ郵送する無料サービスを実施。インターネットで申し込むことで外出自粛の際も蔵書を借りられ、郵送による返却も条件付き措置で認められる。このサービスは多くの学生に利用され、図書館にサービス継続の声が寄せられるなど大きな反響を呼んだ。

また、自宅学習の際には図書館が契約するオンラインデータベースが有用だ。以前は学内のネットワークからでなければ使用できなかったが、昨年度から学外でも一部を除き利用可能に。論文やレポート作成に活躍する辞書、事典や新聞だけでなく「東洋経済デジタルコンテンツライブラリー」など就職活動に役立つサイトにもアクセスできる。覚えておけば、コロナ禍の学生生活で重宝するはずだ。（外山隼也）

トラスコンガーデン

本館の東側にあるトラスコンガーデンは、広々としたスペースを持つ人気のカフェテリアだ。学生からは「トラコン」という愛称で親しまれている。憩いの場としてなじみ深いトラコンの歴史は古く、1924年までさかのぼる。屋内運動場として建てられたが、戦時中にはトランシーバーの組み立て作業場だったこともある。戦後は大学小体育館として長らく利用され、2018年の内装改修を経て、現在の姿に生まれ変わった。

建物内には自動販売機、コンビニ、コンビニ内ATMなどが設置されているため、休み時間には多くの学生でにぎわう。テーブル席やソファが多数設置され、大人数を受け入れることが可能だ。また、勉強や待ち合わせに適した窓向きのカウンター席も用意されており、さまざまなシーンで活用できる。

１号館

キャンパスの中庭であるアトリオに面した1号館は、４階建ての建物だ。館内には学生相談室や各種センターなどが設けられている。1階にあるキャリア支援センターは、就職活動に関する情報を扱う。求人票やインターンシップ・就職活動の体験談を掲載したサイトの運営、就活準備イベントの企画、公務員試験対策講座の開催などを行う。幅広い業務を通して、学生のキャリア形成を支えている。学年に応じた個別相談も実施されており、一人一人に寄り添ったキャリア教育を1年次から受けることができる。

２階には国際教育センターがある。留学生の手助けを行うバディシステムや多読教育プログラムといった、国際感覚を培う取り組みが実施されている場所だ。1号館の各施設で提供されるサービスは、充実した学生生活を送る上で活用できるだろう。自身に合ったものを選択し、将来に役立ててほしい。（髙田亜美）

自らの成長へ「学び」を見つめ直す

新学期を迎え、新たなスタートを切る４月。今後の生活を実りあるものにするには、学びとの関わり方を多角的に見つめ直すことが大切だ。大学で学ぶ意義や学生による子どもへの教育支援、卒業後も学修を続けられる方法に着目する。

学生に聞く 大学生活の意義

大学という環境に魅力を感じる学生は多い。しかし、オンライン授業が中心となり、大学で学ぶ意義を見失いつつある人もいるのではないか。そこで座談会を開催し、大学生活について学生に話を聞いた。メンバーは北知歩さん（現代社会２）、後藤涼介さん（経済経営２）、山本隼土さん（法律２）、金子敬裕さん（情報科２）、田代雄人さん（政治２）の５人だ。

▼大学の授業から得た知見

北さんは「在学中は学びに対して欲張りたい」との思いから、興味を持った授業は積極的に履修するように心掛けている。実際に、専攻分野とは異なる物理学の授業を履修したことで視野を広げたという。

また、後藤さんは少人数制の特別カリキュラムである情報分析プログラムの「アントレプレナーシップ」に関する授業が印象に残ったと話す。この授業では、起業家精神を学ぶために企業や個人事業主にインタビューを行う。オンライン授業であったため、対面ではなかなか交流できない海外の人から話を聞けたという。「この経験を自分の将来にも生かしたい」と意気込んだ。

▼授業以外の活動から得た学び

大学生活の中で学びを得る機会は授業だけではない。山本さんは、所属する混声合唱団の活動を通して自らの成長を感じた。オンラインでの部活動となり、部員間で活動に対するモチベーションに差が生じている状況を目の当たりにしたことで、自分に何ができるか考えるようになった。元々主体的に動くことは苦手だったが、今では組織の中で役割を担う重要性を実感しているという。他の参加者も、アルバイトやボランティアなどを通し、責任感や円滑な人間関係を築く力を磨いていた。

▼大学で学ぶ意義

金子さんは大学を「さまざまな挑戦ができる場所」と表現した。社会人になると失敗が許されない状況が増えるが、学生の間は失敗しても取り返しがつくことが多い。意欲的に挑戦するべきだと呼び掛ける。一方、田代さんは大学を「無駄」なことが学べる場だと捉える。実学のみならず、あらゆる学問を通して教養を身に付けることが、豊かな人生の実現につながると述べた。

このように、学生のうちにさまざまな経験を積むことが、自身の成長の糧となるだろう。大学生活の中で得られるものは人それぞれだ。一度自分なりの大学に通う意義を見つめ直してみてはいかがだろうか。（増田猛）

教育施す 子どもの貧困解決へ

「学び」は教育を受けることだけにとどまらない。NPO法人Learning for Allでは、学生がボランティアとして「子どもの貧困」の本質的解決に向けた活動をしている。

本団体は、困難を抱えた子どもたちへの学習支援事業と居場所支援事業を展開。各地域の公民館や学校の教室を拠点に学習支援を行うほか、安心できる居場所を提供し、生活指導や食事提供など、子どもの状況に合わせた支援を行う。現在は子どもを多角的に支援する包括的支援モデルの作成と、より多くの地域へのモデルの導入に尽力している。将来的には包括的支援モデルを法制度化することが目標だ。

また、本団体の事業は学生の人材育成も兼ねている。ボランティアに採用された学生は約30時間の研修を受講。指導準備やフィードバックも毎回入念に行われるため、誰もが質の高い教育を実現できる。こうした育成の背景には、子どもの貧困の本質的解決に向けた強い思いがある。職員の吉山泰子さんは「参加している学生にはボランティアを通して課題を捉え、社会に出ても子どもの貧困の問題を意識した行動を続けてもらいたい」と話す。本団体は学生ボランティアを随時募集している。関心がある方はまず、ボランティア相談会に参加してはいかがだろうか。

本団体の活動では、社会問題を知識として学ぶだけでなく、教える側に立って理解できる。多くの視点から課題を知り、一人一人のできることから行動していくことが重要だ。（夏目大）

勉強を教える学生ボランティア
（コロナ禍以前の様子）

学びを身近に Schooの授業

「リカレント教育」という言葉が日本でも普及し始めている。リカレントとは「循環」という意味で、学ぶことと働くことを循環させ、自らを向上させることを指す。このような考えの広まりとともに、大人向けの教育サービスも増加傾向にある。今回は20代から40代の利用者が多いオンライン教育サイト「Schoo」を取り上げる。

Schooでは、登録者が無料で生放送授業を視聴でき、有料会員は録画授業も受講可能。「自ら未来を選択するために学んでおくべきこと」を軸に、幅広く展開される授業が大きな魅力だ。受講生の反応をはじめとしたデータに基づいて、ユーザーが求める授業を提供している。大手広告代理店で活躍する社員による、相手の心をつかむ言葉についての授業や、ビジネス書の著者が自著を解説する授業など、社会人にとって実践的な内容が人気だ。

他のオンライン教育サイトと異なるのは、授業が生放送で配信される点だ。受講生は質問や感想をチャットボードに書き込むことで、講師や他の受講生とコミュニケーションを取ることができる。こうしたやり取りが、受講生の学びを深めることにつながっているという。単に知識を提供するだけではなく、学びのコミュニティとしての役割を果たしていることも、Schooが支持される理由の一つだ。

株式会社Schooの代表・森健志郎さんはウェブサイトnoteにて「学びは、日常生活や人生と寄り添う概念だ」と述べている。Schooのようなオンライン教育が拡大することで、学びはより身近な存在へと変わっていく。働きながら学ぶという生活スタイルが当たり前になる日は近い。（三瓶純一）

編集後記

昨年度は多くの大学がオンライン授業を実施し、大学生活は大きく変わった。授業の遠隔化が進み、学びが多様化している今、積極的に学ぶことの重要性は高まっているのではないだろうか。また、近年はアクティブラーニングといった学生主体の学修法が教育現場に導入されており、能動的な学修は社会で注目されつつある。

本特集で行った座談会では、実際に能動的に学んでいる学生たちが、学びについて意見を交わした。授業や課外活動を通して他者の視点に触れることが、自らの成長につながったと実感する学生は多いようだ。自身の経験は社会に役立てることもできる。子どもたちに学びを提供するボランティア活動はその一例だ。さらに、学校卒業後も各自の課題を解決するためのコミュニティに参加し、学修したことを仕事に生かす人も増えている。こうして連鎖した「学び」から得たものは、周囲に役立てることができる。

取材を経て、学ぶ内容や方法の幅広さ、知識を活用する機会の豊富さに気付かされた。個人で知識を蓄えることも必要だが、学びは一人で完結するものではない。さまざまな人と関わる中で、学んだことは生かされ、深まっていくのではないだろうか。学び方が変容する時代だからこそ、学ぶ意義や学んだことを生かす機会について考えることが求められる。（梶原万穂）

成蹊大学新聞
発行人　倉田　滉也
編集人　岡本　和音
制作人　小西　優花
山田　拓斗
白川　ゆり
夏目　大
デスク　大原　将世
勝見　季紘
梶原　万穂
○ご意見・ご感想は seikeipress@gmail.com
○広告掲載のご依頼は seikeipress.ad4@gmail.com
までご連絡ください。

SATORI GROUP

Technology
Solution
Global
手を伸ばすと、指先に“未来”が触れた……。
挑戦する楽しさを、
やり遂げる喜びを分かち合いたい。
FORESIGHT
もっと先へ、もっと未来へ
会社概要
・設立　1947年
・資本金　26億3800万円
・売上高（単体）　489億2500万円
（連結）　1071億3000万円
・株式上場　2003年　東証一部
・事業内容　電子部品・電子機器の販売及び、これらに付帯する事業
・子会社
佐鳥パイニックス
スター・エレクトロニクス
佐鳥SPテクノロジ
台湾佐鳥
香港佐鳥
佐鳥貿易（上海）
佐鳥貿易（深圳）
韓国佐鳥
シンガポール佐鳥
タイ佐鳥
佐鳥Ｅーテクノロジー
佐鳥ドイツ
佐鳥電機株式会社
http://www.satori.co.jp/
代表取締役社長執行役員 佐鳥浩之（経　済　1989年卒）